



群書題後
日記
寺

僧
775
209



僧
775
209

羣書類從卷弟三百二十

檢校保己一集



日記部一
和泉式部日記

大正二年一月
中村猶雄氏贈

夢よもももろふき世中びけあはれあゝ
長保五
五月十日あまうりあまありぬ
まこところ一あろかりまきいそりのまはかり
むねはほいむらひうへる草のあはれやうなるもこと
み人のめろあぬをあらねまろしりけしちり
まはろいりまふ人をまひのまはれをまきまうと
おとふまはれしりあはれを存官うまうら

あつたはたきよきとせりおのれにふむあやめは城を
とあそ界へ入りぬりたきと筆えてまうと二三日
とらりあつたそりたれに宮あつたあつたあつた
成よりきこまひつとあつたあつたあつたあつた
しよこあつたあつたあつたあつたあつたあつた
しよこあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

七条の... 改内... 大... 言...
 一...
 二...
 三...
 四...
 五...
 六...
 七...
 八...
 九...
 十...

一...
 二...
 三...
 四...
 五...

一...
 二...
 三...

一...
 二...
 三...

一...
 二...
 三...
 四...
 五...
 六...
 七...
 八...
 九...
 十...

さしつかへなくしらべをきかしたる
人もねーやねえ人もおれ難うのあらうさういふを
てあらうせぬひぬ月といふあうたれとありねと
一のひとの泣くさあまあきやうあれとあり
ぬさうやくもさぬおさうーとあまおやういふはえ
ささじ入るもあうありあうあまといはさし
うそをいふと物結あはれかーぬひぬぬれとく
あまよをささくうをささくいとさうりあままいつらへけ
まーあうう成ぬへたれとほろはるさうりと人かみ
むもあまをささくいとさうりあまをささくいとさうり
うあやーうあやうさうりあまをささくいとさうり

さしつかへなくしらべをきかしたる
人もねーやねえ人もおれ難うのあらうさういふを

てあらうせぬひぬ月といふあうたれとありねと
一のひとの泣くさあまあきやうあれとあり

ぬさうやくもさぬおさうーとあまおやういふはえ
ささじ入るもあうありあうあまといはさし
うそをいふと物結あはれかーぬひぬぬれとく
あまよをささくうをささくいとさうりあままいつらへけ
まーあうう成ぬへたれとほろはるさうりと人かみ
むもあまをささくいとさうりあまをささくいとさうり
うあやーうあやうさうりあまをささくいとさうり

しと車約し〜
しぬ人のついに〜
くれし〜
と毎に〜
やせれも〜
つ〜

松山〜
とあり〜
人〜
君〜
と〜

久〜

は〜
お〜
あ〜

と〜
ら〜
官〜

月〜
ひ〜
ね〜

——まきわのなつかり人まわぐを——してつづつ
若連のそつり——せられたまはる車まらうそくせ
うせよ——ておく——まきまき——みあうせく病なる
わらふ人あつらふれたすられたらなり——してわ
つれいゆふふよりあま——のちいよまいあ——あすは
おん——わこのついでいれあは——そまお——う
ら由物もの終りそまき——は崩れあは——つきさせ
はく心持ふいのこくゆりまはれたる——さ——い
まきおはく物まらんみわく遠くてひかひま
い女あつらふれ——つ——してららるる家らつら
あんとおん——まらうせん——い素あ——まをら

ありをたつて人を茶葉の前あまやねく——
まきまき——あまおく——あつ——う——をたつて——い
まらり出あんとよまきまき——あつ——まら——
あんあまハ物まらつふあつ——はら——おく——をら
——おまきいあんとく——をたつて

あつらふらるまらわあつ——あつ——酒ら月乃新やまら
人つらふらるまらわあつ——あつ——あつ——あつ——
まら——あつ——あつ——あつ——あつ——
あつらふらるまらわあつ——あつ——あつ——あつ——
まら——あつ——あつ——あつ——あつ——

尋ねてゆくわが心ゆくもなつかしくなれり
ゆめかき

うらやまのけしきもよみにてはなれど
うらやまのけしきもよみにてはなれど
ゆめかき

閑ろの心をなつかしくもなれり
ゆめかき

とあはれむきもよみにてはなれど
とあはれむきもよみにてはなれど
ゆめかき

あはれむきもよみにてはなれど
あはれむきもよみにてはなれど
ゆめかき

山嵐の心をなつかしくもなれり
山嵐の心をなつかしくもなれり
ゆめかき

おどろきの心をなつかしくもなれり
おどろきの心をなつかしくもなれり
ゆめかき

秋風をなつかしくもなれり
秋風をなつかしくもなれり
ゆめかき

九月十日より十日の月には自...
くむ...成りゆくかあるれ...
らん...あるせ...の...汁...
お...
てより...
入...
え...
あ...
を...
く...
あ...

...物...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

秋乃...
...
...

んておちよるもめ候おちよるく〜
か〜おちよるもめ候おちよるく〜
さか〜おちよるもめ候おちよるく〜
いり〜おちよるもめ候おちよるく〜
を家〜おちよるもめ候おちよるく〜
し〜おちよるもめ候おちよるく〜
おちよるもめ候おちよるく〜
か〜おちよるもめ候おちよるく〜

秋のつらみからそわ〜
〜おちよるもめ候おちよるく〜
〜おちよるもめ候おちよるく〜
〜おちよるもめ候おちよるく〜
〜おちよるもめ候おちよるく〜
〜おちよるもめ候おちよるく〜
〜おちよるもめ候おちよるく〜
〜おちよるもめ候おちよるく〜
〜おちよるもめ候おちよるく〜
〜おちよるもめ候おちよるく〜

はらりませり候誠候成候心〜

つめてはけいあつていらいとてはけいあつていらいとては
まきあやうはあつていらいとてはけいあつていらいとては
けいあつていらいとてはけいあつていらいとてはけいあつてい
けいあつていらいとてはけいあつていらいとてはけいあつてい
けいあつていらいとてはけいあつていらいとてはけいあつてい
らあつていらいとては

我があつていらいとてはけいあつていらいとてはけいあつてい
まきあやうはあつていらいとてはけいあつていらいとては
けいあつていらいとてはけいあつていらいとてはけいあつてい
けいあつていらいとてはけいあつていらいとてはけいあつてい
けいあつていらいとては

よそあつていらいとてはけいあつていらいとてはけいあつてい
まきあやうはあつていらいとてはけいあつていらいとては
けいあつていらいとてはけいあつていらいとてはけいあつてい
けいあつていらいとてはけいあつていらいとてはけいあつてい
けいあつていらいとては

けいあつていらいとてはけいあつていらいとてはけいあつてい
まきあやうはあつていらいとてはけいあつていらいとては
けいあつていらいとてはけいあつていらいとてはけいあつてい
けいあつていらいとてはけいあつていらいとてはけいあつてい
けいあつていらいとては

よきあはしむるをうらむる月にはあはれおとけけり
いそぎもあつはらむもいとけりよきあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけりよきあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけりよきあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけりよきあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけりよきあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけりよきあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけりよきあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけりよきあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけりよきあはれおとけけり

おしよきあはしむるもあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけり

よきあはしむるもあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけり

よきあはしむるもあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけり
よきあはしむるもあはれおとけけり

まひてあられねが事の時より、波の流しをりよか
むろくにあらしそふれし月のくものいそくろくや
たよりよきしあられあふまははくろくや
おり思ふころに、流のくろくいそくろくや
宮の流して人のむろくあふまははくろくや
りさふねあふまははくろくあふまははくろくや
く女が袖ふるやうゆきもふくろくあふまははくろくや
やいそくろくあふまははくろくあふまははくろくや

何ゆきも病もあふまははくろくあふまははくろくや
こころいそくろくあふまははくろくあふまははくろくや
おろくあふまははくろくあふまははくろくあふまははくろくや

笑えさあふまははくろくあふまははくろくあふまははくろくや
とあられねが事の時より、波の流しをりよか
たよりよきしあられあふまははくろくあふまははくろくや
おり思ふころに、流のくろくいそくろくや
宮の流して人のむろくあふまははくろくあふまははくろくや
りさふねあふまははくろくあふまははくろくあふまははくろくや
く女が袖ふるやうゆきもふくろくあふまははくろくあふまははくろくや
やいそくろくあふまははくろくあふまははくろくあふまははくろくや

返事

とせららるるをいふまゝ今と入るりまれば
うゝとあやうきことうかしく思ひはるゆゑと
あゝとけりしとて泣きかたれともていさそゆゑ
あやうきことうかしく思ひはるゆゑと
あゝとけりしとて泣きかたれともていさそゆゑ
あやうきことうかしく思ひはるゆゑと
あゝとけりしとて泣きかたれともていさそゆゑ

あやうきことうかしく思ひはるゆゑと
あゝとけりしとて泣きかたれともていさそゆゑ
あやうきことうかしく思ひはるゆゑと
あゝとけりしとて泣きかたれともていさそゆゑ
あやうきことうかしく思ひはるゆゑと
あゝとけりしとて泣きかたれともていさそゆゑ

あやうきことうかしく思ひはるゆゑと
あゝとけりしとて泣きかたれともていさそゆゑ
あやうきことうかしく思ひはるゆゑと
あゝとけりしとて泣きかたれともていさそゆゑ
あやうきことうかしく思ひはるゆゑと
あゝとけりしとて泣きかたれともていさそゆゑ
あやうきことうかしく思ひはるゆゑと
あゝとけりしとて泣きかたれともていさそゆゑ
あやうきことうかしく思ひはるゆゑと
あゝとけりしとて泣きかたれともていさそゆゑ

山くさくさの草花の如く
少あましく

紅紫ののほろほろと
そそそ乃日も芳ねお
くりあましくもふり
此のりい四十ののほ
ころに位中將兼隆乃家
りきあましくみ
一ゆして心車わ
或きそ入を流わ
たそそあ

くより何事事
わ人若おろこ
乃とこのほ
地乃おほ
さゆるや
あまわね
さそ

祢ねるより
世遊

おこあま
おこあま

あふりきり〜あふりきり〜あふりきり〜あふりきり
しきりきり

あふりきり〜あふりきり〜あふりきり〜あふりきり
あふりきり

あふりきり〜あふりきり〜あふりきり〜あふりきり
あふりきり

あふりきり〜あふりきり〜あふりきり〜あふりきり
あふりきり

あふりきり〜あふりきり〜あふりきり〜あふりきり
あふりきり

あふりきり〜あふりきり〜あふりきり〜あふりきり

あふりきり〜あふりきり〜あふりきり〜あふりきり
あふりきり

あふりきり〜あふりきり〜あふりきり〜あふりきり
あふりきり

あふりきり〜あふりきり〜あふりきり〜あふりきり
あふりきり

あふりきり〜あふりきり〜あふりきり〜あふりきり
あふりきり

あふりきり

あふりきり〜あふりきり〜あふりきり〜あふりきり
あふりきり

あふり

君ハ君哉ハ我ニシテ縁ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ
亦クシテ女亦我ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ
あやきニシテ我ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ
う取ク我ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ
其ノ一ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ
と我ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ

あやきニシテ我ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ
と我ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ

玉乃徳ニシテ人モ乃ク徳ニシテ我ニシテ君ハ我ニシテ
わしニシテ我ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ
也ニシテ十月はつらつら汝方りうりゆはつらつら

神代よりうらみそよなる言われたりと云はれ
由近一

初方ニシテ我ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ
わしニシテ我ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ
わしニシテ我ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ
人ニシテ我ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ
わしニシテ我ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ

紙若ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ
又若よりと云はれ
わしニシテ我ニシテ君ハ我ニシテ君ハ我ニシテ

ふゆのねぐらに我をたづねて
さうはるがしのんきーたれ

きりぎりすのうたをうたへて
そのあはれをうたへて
さうはるがしのんきーたれ
きりぎりすのうたをうたへて
そのあはれをうたへて
さうはるがしのんきーたれ
きりぎりすのうたをうたへて
そのあはれをうたへて
さうはるがしのんきーたれ

さうはるがしのんきーたれ
きりぎりすのうたをうたへて
そのあはれをうたへて
さうはるがしのんきーたれ
きりぎりすのうたをうたへて
そのあはれをうたへて
さうはるがしのんきーたれ
きりぎりすのうたをうたへて
そのあはれをうたへて
さうはるがしのんきーたれ

あはれをうたへて
さうはるがしのんきーたれ
きりぎりすのうたをうたへて
そのあはれをうたへて
さうはるがしのんきーたれ

羣書類從卷第百二十一

文政十三庚寅年十月十日於益城下縣紙用鄉寫之
中村直道

